

【地域の安全】

16	<u>実感平均値については、H31分を出してほしい。</u>	Tee委員	第4回 資料4, 5, 6	第3回
17	県庁としては、 <u>災害に対する備えを着実にしてきたと思うが、実感が伴っていないのではないかと</u> 。むやみに安全というのも難しいが、物理的な対策だけではだめで、過度な不安感を持たせないような情報の出し方も含めて認識を深めることで、災害に備える体制がちゃんとあるから、しっかり行動していただければ大丈夫なんだとさせるかどうか。	吉野部会長	意見	
18	前回資料6-2で、地域の安全の最初のところを振り返ると、上位3項目はここにピックアップしている通りだが、 <u>社会インフラの老朽化があり、実感が上昇あるいは横ばいの人に比べて高いのが気になっている。基本的には3項目で統一されているが、実感が低下しているところで、安全のところであるので、これは入れても良いのではないかと</u> 。 文章はこれからの精査があると思うが、資料2-③-1で分野別実感が低下した理由のところ、昨年だと「主な回答理由は以下のとおり」となっていたので、はっきりと「上位三項目は以下のとおり」と書いて良いのではないかと。	山田委員	意見	
19	若菜委員が言った話だと思うが、顕著に実感が低下したもののについて、そういう割合が違うものについて書くべきというのはいかなかなと思う。感想だが、想定している以上の災害が起きているので、それがやはりこれに繋がるのかなと。国においてコロコロ情報の発信の仕方が変わっており、避難指示や勧告等が変わるのが個人的に不安につながっている。	Tee委員	意見	
20	<u>上昇している人と低下している人では見ているものが違う</u> 。社会インフラは、上昇している人はあまり気にしていない。自然災害はみんなが気にしているけど感じ方が違うので、9番や10番が下がっているという考え方には賛同。 「主な回答理由」というとその要因を聞いていたように誤解を与えるので、昨年の記載ぶり等を踏まえて慎重に記載されたい。	和川委員	意見	
21	先日、盛岡広域圏の経営会議があり、そこで土木部から地滑りなどの危険地域190箇所の予備調査をR3で目標値は全部終わって、2巡目に入っているとの話があった。委員の中から、そういうところを選んでいる基準が本当に正しいのか、調査手法が適切なのかという意見が出た。こういったことを政策レベルに落とした時に、危険箇所を期日までに何か所以上やるという目標を現場は立てて頑張っているが、そもそもそれで安全性が確保できたと実感されるのかということ、この通り特に高齢者の実感が下がっているとすると、調査されてると言っても、それは安全になったというところに追いつかないということ現場レベルの頑張り方と最終的な県民の皆さんが安全になったという実感のギャップがなかなか一致しないと思った。だけど、政策レベルでは、何を何箇所やったという出し方にならざるを得ないので、クリア状態だと人命の安全性をもっと高めようとしていきますという話でどちらも悪くないのだけど、ずれがある気がする。調査を何箇所やるということよりも <u>安全性を高めることが実感できるような調査か、それを情報としてどう出していくのか。県民に伝わっていくような仕組みを作ることで実感をキープできるようにしていかないと、近年災害が頻発かつ大規模化していることは全国的に言えそうなので、それを放っておくわけにはいかない時期に来ているので、安全性を高める施策を現場に伝えて考えていただくことも大事</u> かなと思った。	吉野部会長	提言	
22	地域の安全を感じ取るということと言うと、R4では沿岸の方が少しずつ他の広域圏と近い形になってきているのは、いいことかもしれないと思って見ていたのだが、どちらにしてもH28からR4まで沿岸では安全を感じないという人が他の広域圏に比べて高くでいるということなので、 <u>安全を感じられるような施策を考えてみる必要があるというのを入れておいた方がよい</u> のではないかと考えた。沿岸は感じないという人のグラフが際立って多い、常に上にあるということを入れておいたほうがいい。	竹村委員	意見 提言	
23	住民参加も重要であり、いくら供給側がいい情報を出していても、住民側があまり理解していただけないとなれば、あまり意味がない。 <u>どうやったら住民にわがこととして思っただけになるかもとても大事。それが</u> あることで、安全の実感も高まる可能性もあるのではないかと。	吉野部会長	意見 提言	